



Well - Being Challenge おおがわら

町民グラウンド・ゴルフ大会

10月25日、大河原公園多目的広場を会場に～WBCおおがわら～令和7年度町民グラウンド・ゴルフ大会が開催されました。大会には、グラウンド・ゴルフ愛好者66名が参加し、日頃の練習の成果を競い合いました。

大会結果

【男性の部】	【女性の部】
優勝 可沼 勝治	優勝 木内 幸子
準優勝 佐山 功	準優勝 齋藤 アキ子
第3位 永沢 晴男	第3位 永沢 京子



みんなでリガーレ仙台を応援しましょう!!

<試合日程>
令和8年2月 7日(土)、8日(日)
3月14日(土)、15日(日)
<会場> ヒルズはねっこアリーナ
本町はリガーレ仙台のホームタウンです。

※ 大会詳細については、町公式LINEやおしらせばん(1月1日号)等でお知らせします。

WBCおおがわらの問合先▶スポーツまちづくり推進課 ☎0224-87-8040



【ひとり分栄養価】
エネルギー：34Kcal 塩分：0.8g

調理担当
ヘルスメイトからの一言

みその量は少ないですが、トマトケチャップの塩味でおいしくいただけます。

佐藤 政子(桜町2区)

冬野菜のみそ汁

材 料(2人分)

- ・ごぼう.....30g
- ・大根.....60g
- ・にんじん.....40g
- ・はくさい.....40g
- ・ねぎ.....10g
- ・だし汁.....300ml

- A { みそ.....小さじ1
トマトケチャップ...小さじ1
酒.....小さじ1/2

作 り 方

- ①ごぼうは皮をこそげ、太めの千切りにする。水にさらし、ざるに上げて水気を切る。
- ②大根とにんじんは皮をむき、太めの千切りにする。白菜は軸の部分を太めの千切りにする。葉の部分はざく切りにする。ねぎは小口切りにする。
- ③鍋にだし汁を入れ、ねぎと白菜の葉以外の野菜を加え、中火にかける。煮立ったら弱火にし、蓋をして6～7分煮る。途中で白菜の葉を加える。
- ④Aで調味し、ねぎを加えて火を止める。

かんたん
健康
Cooking

「おおがわら」食ではぐくむところからだ
大河原町食育スローガン
おいしく食べよう朝ごはん
奥歯でよく噛み味わいながら
家族で野菜のおかずを一皿増やし
我が家(町)の食を伝えよう
らくらく(楽々)みんなで食育推進

町長コラム
Mayor's Column

さくら並木

いよいよ『子ども第三の居場所(おおがわらきち)』が開所。

～みんなが、みんなのこどもを育てる社会を目指して～

大河原町長 齋 清志

以前にもお知らせしました『子ども第三の居場所(おおがわらきち)』が、NPO法人アスイク及び(公財)日本財団の支援・援助により11月28日に開所の運びとなりました。アスイクは、東日本大震災等をきっかけに浮き彫りとなったこどもの抱える様々な課題の解決に向けて、自治体との協働により子育て支援の実践に努めています。

また、本町にも関わる取組として法律に基づき県からの委託を受けた、貧困世帯の負の連鎖を防ぐための『こどもの学習支援事業』や総合相談機能を持つ組織(YuRaRi(ゆりり))において、こども・若者・家族の困り事への相談支援も担い、多角的にこどもの居場所づくりにご尽力いただいています。

本町は去る5月23日に、アスイク及び日本財団との『子ども第三の居場所事業』に係る協定を締結し、アスイクが日本財団から施設建設費と令和8年度までの運営費の助成を受けて開設し、助成終了後は本町が継続していくこととなっています。先に、国でも『子ども第三の居場所』を定め、全てのこどもが安全

で安心して過ごせる居場所事業を推進しているところです。(補助あり)

その中で、『子ども第三の居場所』は、市町村事業として『児童育成支援拠点事業』と位置付けられており、この居場所の支援提供の充実を図るとしています。そして、こども及び家庭の状況を把握し関係機関と連携を取り、個々のこどもの実情に応じた支援を包括的に提供することにより虐待を防止し、こどもの最善の利益の保障及び健全な育成を図ることを目的と位置付けています。

それでは、具体的な拠点の概要について説明させていただきます。定員は1日20名程度、開所日：時間は月々金曜日の放課後から午後8時までです。設備としては、フリースペース・学習スペース・相談室・風呂等で、スタッフ4名程度での対応となります。『子ども第三の居場所』は、地域のこどもたちが一人ひとり安心して過ごせる場所であり、信頼できる環境の中で生活のリズムが整い、学習への意欲が高まることに期待を寄せています。

アスイクの掲げる『みんなが、みんなのこどもを育てる社会』の

実現は、家族の在り方や地域コミュニティの再生にもつながる極めて大切な視点であると受け止めています。社会的包摂やSDGsの『誰一人取り残さない』理念を共有しながら、みんなで力を合わせることを改めて強く感じた次第です。

本町は、ひとり親世帯の多い町であり、更なる支援の充実が重要となっています。この取組も本町の目指す『Well-beingなまちづくり』の実現へとつながるように、全てのこどもの幸せを心から願い続けたいと思います。

(11月14日記)



▲ おおがわらきちの内観(11/19時点)